



Flash News

三重大学

第50号

目次

- 四日市公害訴訟判決35周年記念
国際環境シンポジウム「四日市学」を開催
- 科学研究費補助金の説明会を開催
- 平成19年度「みえメディカル研究会総会」を開催
- 「学長と学生と津市長との懇談会」
- 「国際バイオEXPO」で発表
- 免疫細胞療法の臨床試験に向けて
- 三重大学産の酒米を使った日本酒が全国新酒
鑑評会で金賞!!
- 第6回産学官連携推進会議が開催される
- フランス大使が訪問
- 医学研究のための寄附へ感謝状贈呈
- 熊野在住の作家・中田重顕氏講演会
- 小児科病棟夏祭り

四日市公害訴訟判決35周年記念 国際環境シンポジウム「四日市学」を開催

7月14日、三翠ホールにおいて、地域住民、学生、企業、行政など約300名の参加者が集まり、標記シンポジウムが開催されました。第1部では、四日市公害の過去・現在・未来について発表（人文学部 朴 恵淑教授、日本気候政策センター 森嶋昭夫理事長、金 仁煥韓国前環境部副大臣）がありました。また、第2部では、四日市喘息患者で原告の一人だった野田之一氏をはじめシャープ(株)、中部電力(株)などの企業や、県の担当者による四日市公害の教訓を今後どのように活かすかについて語り合いました。このシンポジウムは、研究者のみならず地域の環境問題について三重大学の社会的責任を果たす大きな役割を担う機会となり、アジア諸国の環境問題に対する国際環境協力において、四日市公害の教訓をいかした日本の役割を探る大きな動きとなりました。



科学研究費補助金の説明会を開催

7月17日、三翠ホールにおいて、標記説明会が開催されました。奥村研究担当理事からの挨拶に引き続き「科学研究費補助金獲得に向けて～魅力ある申請書の作成を目指して～」、文部科学省担当官による「科学研究費補助金の現状と課題」および「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインについて」と題した講演が行われました。当日は、県内の各大学等からの参加者も含め121名が出席し、有意義な説明会となりました。なお、当日の説明資料など詳しくは、<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/kaken/setumei/4/s4.html>をご覧ください。

平成19年度「みえメディカル研究会総会」を開催

6月28日、三翠ホールにおいて標記総会が開催されました。90名が参加する中、本年度の活動方針などの報告・承認および2テーマの講演が行われました。本研究会（会長：奥村克純理事）は、三重県が平成14年度から展開しているメディカルバレー構想の一環として発足し、大学・公設試験研究機関・企業・行政など医療・健康・福祉分野の産学官民の研究者が参加し、産学官民連携による研究開発や技術開発を目指しています。なお、本年度の個別研究会11のうち9の個別研究会において、本学教員が主査で活躍しています。

「学長と学生と津市長との懇談会」



松田直久津市長

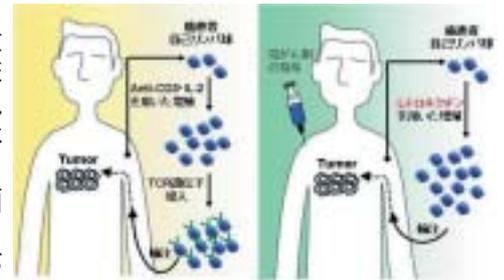
7月12日、総合研究棟Ⅱメディアホールにおいて、標記懇談会が開催されました。この懇談会は、学長と教育担当副学長を囲み、本学学生が教育問題や学生生活問題などについて直接話し合う場として、これまで開催してきました。今回、初めて津市長に参加いただき、「元気な津市」「津市と三重大学」をテーマに、大学院生が「津市観光の活性化」や「地域に根ざした三重大学」の在り方などについて発言し、それに対して津市長や学長らが感想や考え方を述べるなど活発に意見が交換され、有意義な懇談会となりました。

「国際バイオEXPO」で発表

6月20～22日、全国のバイオ関係者の注目を集める展示会「国際バイオEXPO」が東京ビッグサイトで開催されました。出展大学150校、出展企業650社、参加人数21,000名とスケールの大きい展示会です。本学からは、研究成果の発表（生物資源学研究所：久松教授・寺西准教授・田丸准教授、医学系研究所：鈴木教授・西村教授）とポスター展示を行いました。三重大学ブースには多くの人立ち寄り、先生方の研究内容を熱心に聞き入っていました。

免疫細胞療法の臨床試験に向けて

遺伝子・免疫細胞治療学講座〈タカラバイオ(株)産学連携講座〉(「フラッシュニュース第24号」参照)では、現在2つの異なったアプローチでの細胞療法の開発研究に取り組んでいます。一つは、遺伝子操作技術を用いて、食道癌の患者さんの体内にあるリンパ球を癌に反応するリンパ球に変えてしまう試みです。既に3年間にわたる基礎的な検討を終えて、現在三重大学医学部附属病院に設置された「遺伝子治療臨床研究審査委員会」で臨床試験の計画書の審査を受けています。もう一つは、抗癌剤による治療で免疫力が低下する患者さんに対し、予め患者さんから得られたリンパ球を体外で増殖しておき、患者さんが抗癌剤の投与を受けられた後にリンパ球を戻し、癌に対する免疫力を補強回復することを目指すものです。現在計画書を検討中で、今年の秋には臨床試験を開始することを目指しています。いずれの臨床試験も極めて新しい試みであり、まずこれらのアプローチが安全であるか否かを明らかにする第I相試験として実施されます。



癌患者自己リンパ球輸注による2つの細胞免疫療法

三重大学産の酒米を使った日本酒が全国新酒鑑評会で金賞!!

フィールドサイエンスセンター附属施設農場で作られた日本酒(醸造元:元坂酒造)が、全国新酒鑑評会で金賞を受賞しました。これは、同農場の松葉教授と技術職員らが研究を進め品種開発に成功し、品種登録出願を行っている「伊勢錦短稈系統(酒造好適米)」と三重県科学技術振興センターが開発した酵母「mk-3」を原料に用いたものです。日本酒の原料米として普及している「山田錦」以外の品種を使用した第I部での受賞はわずかで、この「伊勢錦」を使用した日本酒を含めて20数件のみでした。

第6回産学官連携推進会議が開催される



6月16~17日、標記会議が国立京都国際会館において開催されました。これは、内閣府、文部科学省等の主催で、日本の産学官連携の方向性が示される重要な会議です。高市大臣の基調講演の後、4つの分科会に分かれパネルディスカッションが行われました。また、パネル展示会場の三重大学のブースでは、主に地域との連携により生まれた新製品や新事業などに関する展示を行い、「地域に貢献する国立大学」を全面的にアピールしました。多くの来場者が足を止め、製品の体験を楽しんだり熱心に情報交換を行ったりする姿が見られました。

フランス大使が訪問

7月2日、フランス大使ジルダ・ル・リデックご夫妻が三重日仏協会(会長:豊田長康学長)の招待による三重県視察の一環として本学人文学部を訪問されました。大使は法律が専門とのことで、リヨン政治学院からの留学生やフランス法関係の教員と懇談され、その後、共通教育・PBLセミナーの授業(担当:グットマン准教授)も見学され、「菊と刀」についての学生の発表に興味深そうにご覧になっていました。



医学研究のための寄附へ感謝状贈呈

医学部では、桑名市在住の佐藤三千雄氏から100万円の寄附を受け、そのご厚志に対し、7月13日に医学部長より感謝状が贈られました。これは、同氏が体への負担が少ない先進的な治療を受けられたことに感謝され、より研究が進められ、多くの患者さんが本治療を受けられることを願い寄附されたものです。感謝状贈呈式では、駒田医学部長から佐藤ご夫妻へ「貴重なご寄附を研究・診療のために活用させていただきます。」と感謝の言葉が述べられました。

熊野在住の作家・中田重顕氏講演会

7月18日、人文学部第3講義室において、人文学部の伊勢湾・熊野地域研究センターと東紀州再生プロジェクトとの共催で、標記講演会が開催されました。地域で優れた文化活動をされている方々を大学にお招きすることにより、「地域連携」の深化を意図したものです。中田氏は「大逆事件紀州組と南紀新しき村~日本の夜明けを目指した熊野の人たち~」と題して、大逆事件で不当な弾圧を受け、それにもくじけずに「新しき村」造りに立ち上がった熊野の人々の姿を、関係資料のスライドを紹介しながら熱弁を振るわれました。会場には人文学部の教員・学生や一般参加者も含め約50名が参加し、活発な質疑応答が交わされました。

小児科病棟夏祭り

小児科病棟では、入院中の子どもたちに季節感を味わえる行事を催しています。なかでも、子どもたちに特に好評なのが夏祭りで、平成14年から三重大学の学生ボランティア「ぞくよん」の協力のもと開催しています。今年も7月18日夕方から、1階外来ホールで、小児科・整形外科などの病棟に入院している子どもやその家族約100名が綿菓子・ヨーヨーなど10種類の出し物を楽しみました。出し物はすべて手作りで、病棟スタッフ・学生が仕事や学業の合間を縫って用意しました。どの子ども病棟では見られないような生き生きとした笑顔で楽しんでいました。スタッフも、子どもたちの喜ぶ姿や笑顔からたくさんの元気や勇気をもらいました。

投稿のお願い 各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしています。小林英雄(kobayashi@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向かいます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページ(http://www.mie-u.ac.jp)でご覧いただけます。》編集責任者/理事・事務局長 三浦春政

